

## 公 示

2013年8月29日

日本原子力研究開発機構労働組合  
中央選挙管理委員会 委員長 平出 哲也

## 第105回定期中央大会 (9月13日(金))へ向けて

一斉分会開催中: (9月12日(木)まで)

分会長さんは分会開催日程を決め、執行部に連絡ください。

### 第105回定期大会代議員定数について

日本原子力研究開発機構労働組合同規約第49条、並びに同選挙規則第12条及び第13条に基づき、大会代議員定数を下表のとおり決定したので公示します。大会において十分な討議を行うため、別に中央執行委員会より配布された大会議案に基づき、分会の意見を集約し、大会代議員の選出を行うよう要請します。

(大会日時: 2013年9月13日(金) 13:45~17:15 真崎コミュニティセンター)

### 第105回定期中央大会

日時: 2013年9月13日(金) 13:45から17:15

場所: 東海村 真崎コミュニティセンター 会議室

議案:

- 第64期の活動の総括と第65期の運動方針、
- 第64期財政報告、
- 第65期財政方針
- その他

連合分会・支部	分会	有権者	代議員
連合1	核サ研	9	1
	東海管理・他地区	13	1
連合2	バックエンド	8	1
	環境・線管・研究室	6	1
	放管第1・第2	3	1
工務技術部分会	工務技術	16	2
研究炉部連合分会	JRR-3	13	1
	JRR-4	5	1
連合3	FCA・炉物理	2	1
	核物理	14	1
	化学	9	1
	先端基礎	17	2
	核融合	3	1
安全・NUCEF・NSRR 連合	中性子科学	10	1
	安工・安試・臨界・NUCEF	6	1
高崎支部	燃安・ホット試験・NSRR	9	1
	高崎支部	11	2
大洗支部	原子炉	35	4
	照射	15	2
	管理	22	2
	HT	12	1
那珂支部	JT60 トカマク	8	1
	那珂・管理	6	1
	JT-60 加熱	7	1
合 計		259	32

## アンケート実施中

研究問題対策部の Web アンケートは9月末まで期間を延長して実施しています。皆様の積極的な回答をよろしくお願いいたします。

インターネット検索から原研労のホームページにアクセスし、「研対ニュース」をクリックすると「原研労組研対部アンケートページ 2013年7月30日(火)」が一番下に現れます。アンダーラインの文字をクリックしてアンケートページへ進んで下さい。

アンケートページ (<https://genkenrouso.net/drupal/enquete2013summer>)に直接アクセスもできます。アンケートを開始するには、「原研労組研究問題対策部アンケート」、「Go to form」または「続きを読む」のいずれかの文字をクリックします。

スマートフォンからもアクセスできます。自宅のパソコンがインターネット環境にない方のために、組合事務所にPCを用意してありますので、利用して下さい。組合事務所は夕方6時まで開いています。

## どこへ向かう原子力機構改革③

「もんじゅ」をどう考えるか？ 分の悪いギャンブルでは

文部科学省が示した、改革の基本方向では、高速増殖原型炉「もんじゅ」の運転管理体制の強化がいられています。「もんじゅ」の開発を続けるとするなら、管理体制、特に機器の保全に万全を期すことに異存はありませんが、単に人員を増やしたり、電力会社からの協力を得ることで、開発が前進するのでしょうか？本当に「もんじゅ」を何とかしたいのなら、何が悪かったのかについて、原子力規制委員会や文部科学省に指摘されていること以外の問題も考えるべきです。

まず第1の問題は、ナトリウム+水冷却の高速増殖炉というものが難しいものだという事。これを忘れてはなりません。同様の高速炉は、諸外国で開発が進められましたが、どの国も途中で開発継続を断念しています。フランスは、実用化という点では最も先を行き、実証炉スーパーフェニックスを作りましたが、止めました。英国では、PFR という炉が、何度か事故を起こしただけでなく細管破断から大きな事故を起こしています。 各国が FBR 計画を中止した理由は、FBR の経済性や、当面必要性がないことだけではないでしょう。

ここで、「諸外国が失敗しているのだから、我が国でもうまくいくはずがない」などと言うつもりはありません。しかし、そのような難しいことに取り組むためには、それなりの覚悟と体制、そして技術的蓄積が必要です。その点で、「もんじゅ」はどうでしょうか。そもそも、旧動燃で、動燃の悪い体質そのままに開発が進められたと見えます。

いわゆる事業団体質：

自ら開発研究を進めるのではなく、企業に金を出して発注すればできる、とする風土。

批判するものを敵視する体質：

問題点に気づき、それを批判する者がいると「仕事の妨害をしている」、あるいは

「反原子力」だの「反体制」だのとレッテルを付けるが、問題点を考えない。

上意下達だけで物事が進められるとする体質もあったと考えます。

そのような風土の中、難しいシステムの開発ができるとは思えません。「もんじゅ」は、これまで、細かなことで多くのトラブルを経験していますが、それだけでなく、概念、基本技術そのものが未完成・未確立です。ある意味で、問題が出てくるのは当たり前です。ですから、考えられる問題、出てくる問題を、正しく認識し、きちんと対応できるかどうか非常に重要です。事業団体質にはそういう幅がありません。

細かい不具合や運転管理の問題を克服できたあとも、原子炉としての本質的な難題が控えています。旧動燃体質の中で作られてきた、「もんじゅ」を、「何とかできるめど」はいったいどのくらいあるのでしょうか？ 「もんじゅ」に原子力機構の将来を賭けるのは間違いだと思いますが、仮に「もんじゅ」を何とかしなければならぬなら、「もんじゅ」の設計、製作状態、保守状態、機構の技術力、問題が起きた場合の解決力などの面を、見直しして、問題点を洗い出すべきです。単にほかの部署から数十人補充するとか、民間から人を持ってくるとかで上手くいくとは思えません。

一方、原子力の中における原子力機構の役割を考えなければなりません。原子力利用を、今の PWR や BWR と共にフェードアウトさせるなら別ですが、少し遠くはなくても、将来の原子力利用の可能性を考えるなら、原子力機構がやるべきことは、本質的な安全性をもち、ダウンストリームの負担も少ない炉を、ゼロからでも研究することではないでしょうか。

これまで、原子力研究は電力会社の思惑に強く影響されてきました。その結果の一部が、福島第一原発事故と言えなくありません。その延長で「もんじゅ」と心中したくはありません。

**給与の大幅削減特例措置を直ちにやめろ !!!**